

第41号

発行/平成24年8月1日
米沢興讓館同窓会
会報編集委員会

当会報の題字は、第19号から奥山徹石氏(平成28年卒)の揮毫によるものです。

米沢興讓館同窓会会報



興福会(昭29年卒) 喜寿記念植樹 平成23年11月10日 興讓館高等学校 思索の森

ごあいさつ



平成24年度 同窓会総会・懇親会

実行委員長 宮坂 宏

(昭和52年卒)

同窓生の皆さまいかがお過ごしでしょうか。今年もまもなく興讓館同窓会の懇親会の時期がやって参ります。毎年千人近い参加者で行われる、全国でも希有なこの大懇親会ですが、今年度は初の試みとして、9月19日の母校の創立記念日と切り離し、9月14日(金)の間催となりました。地元を離れ全国で活躍している仲間たちや、若い世代の方々からの「週末の間催だと出席しやすい」という要望に応えたものです。開催日変更については、同窓会の役員会や我々懇親会実行委員会メンバー間でも賛否が分かれた。しかし最後は、大友同窓会会長や若いメンバーの後押しを受け、一人でも多くの仲間が参加できる環境をつくってみようという思いが一つになり、日程変更の運びとなりました。どうかご理解、ご容認賜りますようお願い申し上げます。

つきましては、皆さま日々多忙な時間を過ごされているとは思いますが、一人でも多くの仲間と再会できますようにお声掛けいただきますようお願い申し上げます。当日は、いつの間にか幼な顔に戻って、「先輩、こいつ、俺、おまえ」で話しが盛り上がり、そして何年ぶりかで会う仲間との邂逅も待っていることと思います。よく同窓会は「若返りの奇跡の場所」とか、「エネルギーの泉」などとおっしゃる方がおりますが、是非そんなパワーを享受できる懇親会にしたいと考えております。我々実行委員会メンバーは大懇親会に向けて、ちやくちやくと準備を進めておりますが、特に今年度は61年卒、平成4年卒、9年卒の若手の活躍が目立ちます。当日は楽しい懇親会になるよう実行委員会一同、精一杯頑張りますので、どうかよろしくようお願い申し上げます。

母校を愛し、同窓会の隆盛に平成十六年から八年間同窓会長としてご指導いただいた高野譲氏から大友恒則氏に任務が引き継がれました。

「同窓生の同窓意識の低迷の打破と、混迷する世相の今日においてこそ我々の興譲館精神が発揮されるべき」と語る新会長と共に、活気ある同窓会づくりに努力していきましょう。

高野会長の後を

引き継ぐものとして

同窓会長 大友 恒 則



新会長の
大友と申し
ます。

興譲館の
年表によれ
ば、昭和二十四年に同窓会が復
活し、会長に高橋興市氏がご就
任。その後昭和四十九年に仁科
五郎氏、昭和五十五年酒井巖
氏、昭和六十二年、私が学生時
代に英語をお習いした松野良寅
先生、その後平成七年に川野希
先輩が、そして平成十六年に高
野譲先生が就任されました。

ちよつと振り返ってみました
がこのたび不肖も顧みず錚々た
る先輩方の流れを引き継ぎさせ
ていただくことになりました。

学校にとりましても同窓会に
とりましても大切な時期に会長
をお引き受けしたものの、私自
身として出来ることは知れてお
ります。何卒皆様のごまごまな
面でのご協力を心よりお願いす
る次第であります。

ところで、本校の校長を最後
にご退職なされた大谷昭男先生
は、前校長として同窓会報二五
号に「まぶしいほど美しい生徒
の姿に接して」という題で寄稿
して下さっています。先生の玉
稿に接し、自分達の学生時代を
振り返って見れば、私達もお世
話いただいた先生方や同窓生の
方々にこのような温かい思いを
受けて素晴らしい学生生活がお
くれたんだと思うと同時に、
在校生にとって同窓会はどうあ
るべきかも教えていただいた気
がします。

今年度からそれぞれ五年間の
指定を受けることになった二つ
の新規事業についてお知らせし
ます。

一つは文部科学省の「スー
パーサイエンスハイスクール
(SSH)事業」の研究開発校
として、もう一つは県の「山形
の未来をリードする人材育成事
業」の進学指導重点校としての
取り組みです。

SSH事業は、平成十四年度
に始まったもので、その目的
は、先進的な理数系教育を通し
て将来の国際的な科学技術関係
人材を育成することです。

本校はその最初の時にも指定
され、理数科を中心に三年間、
「科学する心の育成」を掲げ、
「生涯にわたって科学的に思考
し、創意工夫する力を育むため
の教育課程及び研究方法の開
発」に取り組んで成果を上げて

この言葉は同窓会の柱の一本と
考えております。
会員各位には今まで同様のご
協力をお願いしてご挨拶とさせ
ていただきます。

本校が今回取り組みのは、
「科学好きの裾野を広げ、科学
技術系人材を育て、その先に未
来のサイエンス・イノベーション
(卓越した研究者)の育成を視野
に入れた教育プログラムの開
発」です。今年度は、異分野融
合サイエンスや地域のワイール
ドワーク研修、東京サイエンス
ツアーなど一年生を主対象に取
り組むこととなりますが、RI
KEJO・KJOJJO講座など関
係事業のいくつかは二、三年生
の希望者も対象とし、講演会等
は全生徒を対象に実施すること
になろうかと思えます。

SSH事業への取り組みを通
して校内がさらに知的に活気づ
き、生徒は優れた資質に磨きを
かけ、教師は指導力を高めて、
「興譲の精神」を胸に世界で地域
で活躍する人材を育て、ゆくゆ

くはノーベル賞受賞者を出す、
そういった夢を持って推進して
いきたいと思っております。
もう一つの「山形の未来を
リードする人材育成事業」とい
うのは、県教育委員会が本県学
校教育の現状や大学進学状況等
を踏まえ、義務教育とも連携し
ながら、高校の学力向上と難関
大学や医学部への進学増などを
通して、本県の未来を担う人材
を育てることを目的とするもの
です。

本校でも、今春卒業生の国公
立大学合格実人数が一四〇名と
入学定員のちょうど七〇%で、

二つの新規事業について

校長 佐藤 広 明



米沢興譲館同窓会

平成24年度
総会・大懇親会
ごあんない

米沢興譲館同窓会

会長

大友恒則

平成二十四年度同窓会総会・懇親会実行委員長

宮坂宏

(昭和五十二年卒)

一、日時 平成二十四年九月十四日(金曜日)

一、会場 グランドホクヨウ(市内金池二丁目)

一、日程 ①総会 午後五時

②大懇親会 午後六時半

現役合格率は県内トップでしたが、しかし、いわゆる国立私立の難関大学や医学科への進学希望に十分応えきれていないというのが今の課題です。

本校は、今回、県内進学校九校の一つとして進学指導重点校に指定され、地域のベース校として数学と英語の教科指導アドバイザーが配置されました。今後、英・数を中心として、生徒の学力と教師の教科指導力を高めるための事業が、県教委と連携して展開されることになっていきます。

以上、冗長な報告になってしまいましたが、事業のどこかの場面で同窓生の皆様のお力をお

借りすることがあるかもしれませんが、その時には、母校後輩のためにお力添えをよろしくお願ひいたします。

在校生や同窓生にとって誇らしい学校であり続けるために懸命に努めてまいりますので、同窓生の皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

同窓会の活性化に

ホームページを!

常任理事 HP運営委員会 鈴木 基

数多くの生徒が興譲館の歴史と伝統を築き、そして果立ち、それぞれが色々な分野で活躍している。同窓会HPを開設して四年間、新聞雑誌などに取り上げられた同窓生を紹介してきたが、その記事を振り返り、あら

が、特に若い同窓生の活躍がめざましく、平成卒の方をあげてみると、オリンピックに2回出場した池田めぐみさん(H10卒)、県地区対抗開募大会で5度の優勝を果たした太田尚吾君(H18卒)、バプアニューギニアで理科教師として活躍している坂野雄大君(H17卒)、エジプトで理学療法士として活躍した芳賀由佳さん(H13卒)、婚活イベント「おきたまラブワゴン」でユニークな活動をしている小野川温泉の遠藤直人君(H6卒)がいる。是非、パソコンを開き「米沢興譲館同窓会」と入力しHPで同窓生の活躍をご覧ください。

同窓生からの一言は先輩からの大きな励みや指標になる。新体制のもと、若い同窓生が参加しやすい企画を検討している。

さて過日、大友新体制における本年度初の同窓会役員会が行われ今後の会運営について協議がなされた。どこの同窓会においても、会に対する若い会員の関心の薄さが問題になっている。ようだが本会も例外ではない。諸行事への参加率、会費納入状況どれをとっても低いのが現状である。人生の中で何事にも一生懸命取り組み、多くのことを吸収する時期に同窓会に関心を持てというのは酷かもしれないが同じ学舎で青春を過ごした先輩・後輩との出会いを大切にしたい。在校生にとって若い

同窓生からの一言は先輩からの大きな励みや指標になる。新体制のもと、若い同窓生が参加しやすい企画を検討している。是非、同窓会への積極的な参加を期待したい。パソコンの世界では国内はもとよりイギリス、アメリカ、オーストラリア、中国、インド、タイなどに住む同窓生から一ヶ月に約2000名のアクセスがある。同窓会の絆は連絡と続く。HPで同窓生を紹介していくことによって少しでも同窓会への関心が高まることにつながれば幸いである。また積極的な情報提供も待っている。



松野良寅先生・青木朗氏を悼む

高野 譲

この三月、本同窓会にとって忘れることができないお二人が、相次いでおじくなりになりました。

六日には、本会顧問の青木朗氏（昭和十二年卒）、十二日には元会長の松野良寅先生（昭和十九年卒）が鬼籍に入られたのです。お二人のご功績について

は、既に皆様よくご存知のことですが、改めてその一端を振り返ってみます。

松野先生は、昭和六十二年に、酒井巖前会長の後を継がれ、四期八年にわたって会長を務められました。ちようど、母校が関東町から



同窓会総会で教え子にかこまれる松野先生

現在の箕野の地に校舎が移転し、新しい時代の再出発をした時期に当たります。前年には、母校創立百周年記念事業があり、興譲館の歴史を詳細に記した『興譲館世紀』、そしてエピソードを紹介した肩のこらない読物である『興譲館夜話』が刊行されま

した。そのどちらも松野先生の高い識見と豊かな教養に裏打ちされた名著ですが、全て先生がお一人で書かれたものです。その後、平成十年の落学創設三百年記念事業の際にも、退任された後ですが、『興譲館人國記』を執筆されました。

会長としても、同窓会の新たな基盤づくりをされ、現在のよくな整った体勢を確立されたのです。平成二年には、新たに文化事業基金を設立されました。このような同窓会関係のご功績だけでなく、多くの卒業生にとっては、興譲館の名物英語教師としての先生の方が印象深いと思います。ユーモアたっぷりのお話、授業の中心は忘れることも、多くの方がよく覚えていらつしやることでしょう。

小生にとっては、野球部の顧問として、厳しかった遠藤雄三部長の陰で、親しい兄貴的な存在として忘れ難い思い出があります。

晩年は、ご病気の奥様の介護に専念され、外部にはあまり顔を出されなかつたのですが、奥様のご逝去の後を追うように他界なされました。心からご冥福をお祈り致します。



一方、青木朗氏は、本会の顧問として何か事あることに、特に資金面では実に多大のご援助を戴きました。

近年では、母校思案の森に立派な東屋を寄贈されました。樹木が整備されたこの場所をご覧になった青木氏は、何か憩いの場にふさわしい施設が必要だろうと、すぐこの東屋を寄贈されたのです。

落学創設三百年記念事業として、講堂を建設する際にも多額のご寄付をされました。同講堂の竣工式の前日にお越しになった時には、同窓会室に飾ってあった青木氏の写真（だいぶ前に母校に寄贈された、深い樹林を撮ったもの）をご覧になり、これは古いから新しいものに替えた方がいいと、早速会社に連絡され、現在掲げられている山並みの写真をわざわざ東京から届けさせ、竣工式当日に間に合わせられたというエピソードがあります。

このように青木氏は、本職の

特許事務所のお仕事をされるかわら、趣味の写真でも本格的な活動をなされ、英国王立写真協会の終身名誉会員という榮譽を受けておられました。

去る四月九日には、ホテルオークラでお別れの会が催されましたが、本会から大友会長、遠藤常務理事と共に、前会長として小生も参列致しました（体育文化後援会からは今井昭二前会長が参列）。

国際知的財産保護協会の日本部会常務理事及び副会長として国際的に活躍され、特に中国やソ連の知的財産制度の創設・進展に多大な貢献をされた青木さんにふさわしい盛大な会でした。昔前総理や中国の方など、多くの引辞に、その人柄が憶えられました。

このようなお二人のご他界は、同窓会にとって大きな損失ですが、皆様と共にお二人のご冥福をお祈りし、これまでのご恩を忘れず、同窓会の今後の発展のために、私どももそれぞれの力を出し合って行きたいものと存じます。



支部だより

山形支部

支部長 堤 孝 雄
(昭和34年卒)

日頃当山形支部に対し、格別なご厚情を賜り有難うございます。

私も山形支部は一九八七年八月に誕生しました。二十五年前の今頃ですが、発起人会、第一回設立総会が昨日のように思い出されます。山形市と周辺市町に住む会員は支部の名簿によれば五五〇人ほどです。毎年十一月の総会と有志による四季折々の集まりを催しています。昨年度は十一月に「第二十五回



総会並懇親会」を実施致しました。本部より同窓会長大友恒則様と学校長佐藤広明様のご臨席を戴き感謝申し上げます。校長先生からは生徒の進路、部活動など後輩たちの活躍や先生方の熱心なご指導をうかがい知ることができました。また、「若川陸雄君について」という演題で、前会長の高野譲様よりご講演を戴きました。さすが三年間野球部員として共に活躍されただけあり、内容が濃く、大変興味深く拝聴することが出来ましたが、ご来賓を含め、全員同窓



生でして、懇親会は和気藹々にとぎやかな会場となりました。支部の運営の費用は総会出席者の会費と欠席の方から頂く送金でまかさないです。

さて、「同窓生」の言葉には不思議な響と、なつかしさがあります。山形では「興譲館出身」というだけですぐ親しくなり、会合に誘い込んでもできます。「新年会」、「観桜会」、「納涼会」、「芋煮会」等四季折々に集まっては飲んでいます。老いも若きも皆青年になって、喜びを満喫しあっております。

ただ今「納涼ビールを飲む会」(案内状掲載)の準備中です。

納涼ビールを飲む会

～夏の思い出を語りあおう～

～日時～
平成24年8月1日(土) 午後7時～9時

～会場～
山形市米沢町1-1-1 米沢興譲館同窓会

～参加費～
1,000円

～申し込み～
1. 米沢興譲館同窓会事務局
2. 各支部長

もし山形周辺においでの際はここに記させていたいただいた何かの会に遭遇するかも知れませんが、同学年の仲間と連絡してみたいです。

興譲館を母校に持つ縁に感謝すると共に、母校米沢興譲館高の益々の発展をお祈り申し上げます。

学年だより

2回目の幹事学年で

思ひごと

新野 勝
(平成4年卒)

平成4年3月卒業の私たちは、今回2回目の当番学年を担当しています。前回当番学年からの5年間は東日本大震災という未曾有の震災もあり、政治の不安定さもあいまって将来に對する不安が大きいものとなっています。「第二次ベビーブーム世代、団塊ジュニア世代」と形容される私たちはいずれ社会を引っ張っていくかなければならぬ立場であることを自覚し、不安の大きいこの時代に強いリーダーシップを発揮していかなくてはなりません。

さて、そのようなことを言っではみても、困難な時代であることは間違いないです。過大なストレスにさらされた孤独な社会を生き抜くためには、心の拠り所が必要です。それは家族であったり、友人であったり、コミュニティであったり。その源泉が「米沢興譲館同窓会」と

いえば大げさかもしれませんが、同じ青春を過ごした仲間や同志の先輩後輩とともに何か一つのことを作り上げるといふことも、これもまた心の拠り所です。幹事学年当番制度という、先輩から期せずして与えられた役目をこれからも大事にしていきたいと考えています。

人と人との断つことの出来ない結びつきが「絆」です。幹事学年を受けるにあたり連絡の取れない同級生がいることも確かですが、「絆」を大事にする気持ちを熱く持ち続けたいと思います。



◎平成22年度 同窓会会計決算書 (会計年度 平成22年9月1日～平成23年8月31日)

収入の部

項目	予算額	収入額	増減(△)	備考
繰越金	961,055	961,055	0	前年度繰越金
入会金	1,358,000	1,337,000	△ 21,000	7,000円×191名
年会費	2,300,000	1,500,000	△ 800,000	
過年度会費	0	400,000	400,000	昭和46・47・54・55年卒
雑収入	945	3,257	2,312	預金利息・興譲館 本売上、寄付
計	4,620,000	4,201,312	△ 418,688	

支出の部

項目	予算額	収入額	残額	備考
運営費	1,260,000	1,087,292	172,708	
会議費	100,000	98,083	1,917	理事会等
通信運送費	50,000	15,174	34,826	郵便切手・ハガキ・コピー代
需用費	180,000	119,290	60,710	慶弔・事務用品・弔電
人件費	930,000	854,745	75,255	人件費会計へ繰出し
事業費	2,515,000	1,517,065	997,935	
一般事業費	2,000,000	1,019,336	980,664	各支部総会(旅費・お祝い)・高鍋高校交流事業・会報送料補助・総会補助金
卒業記念費	200,000	182,479	17,521	記念品代(191名分)
表彰費	15,000	15,250	△ 250	永年勤続者(1名)
会報費	300,000	300,000	0	会報第40号7,000部
予備費	845,000	0	845,000	
予備費	845,000	0	845,000	
計	4,620,000	2,604,357	2,015,643	

決算額

収入済額 4,201,312円 - 支出済額 2,604,357円
= 残額 1,596,955円(次年度へ繰越)

窓会支部役員

◇高島支部

支部長 登坂 捷一
〒992-0351 山形県東置賜郡高島町高島2152-23
☎0238-52-0017

副支部長 梅津伊兵衛 星 寛治
幹事長 鈴木 征治
事務局長 金田 康成

副支部長 伊藤 通芳 小林新太郎
事務局長 高野 健人

◇長井・西置賜支部

支部長 松下 隼三郎
〒993-0007 山形県長井市本町1-9-27-3
☎0238-88-2538

副支部長 井上 俊雄 芳賀 康雄
代表幹事 渡部 秀一
事務局長 斎藤 道郎

◇赤湯支部

支部長 佐藤 有弘
〒999-2231 山形県南陽市二色根373
☎0238-43-6660

副支部長 石岡 忠一 須藤 清市
事務局長 三ヶ山岩男

◇県庁・教育委員会支部

支部長 相田 信
〒990-2332 山形県山形市飯田3-7-3-8
☎023-534-5680

副支部長 渡部 慶蔵
幹事長 若月 雅博

◇宮内支部

支部長 山水 克美
〒992-0472 山形県南陽市宮内3172
☎0238-47-7055

副支部長 長谷川 剛 高岡 亮一
事務局長 樋口 一志

◇校内同窓会役員

理事 五十嵐文彦 石黒 宏治
幹事 伊藤 孝 我妻 盛雄 松山 洋子

◇小国支部

支部長 高橋 清人
〒999-1353 山形県西置賜郡小国町
大字兵庫館2-3-14
☎0238-62-2714

◎平成23年度 事業計画

- ①母校振興発展に必要な事業 ②会員の親睦に関する事項
③会報の発行 ④その他、目的達成に必要な事項

◎平成23年度 同窓会会計予算書 (会計年度 平成23年9月1日～平成24年8月31日)

収入の部

項目	本年度予算額	前年度収入額	増減(△)	備考
繰越金	1,596,955	961,055	635,900	前年度繰越金
入会金	1,393,000	1,358,000	35,000	7,000円×199名
年会費	2,300,000	2,300,000	0	昭38～平14年まで5万円(40学年)、昭28年～37年まで3万円(10学年)
雑収入	1,045	945	100	預金利子
計	5,291,000	4,620,000	671,000	

支出の部

項目	予算額	収入額	残額	備考
運営費	1,280,000	1,250,000	20,000	
会議費	120,000	100,000	20,000	理事会等
通信運送費	50,000	50,000	0	郵便切手
需用費	180,000	180,000	0	慶弔・事務用品
人件費	930,000	930,000	0	人件費等880,000+50,000(9月手当)
事業費	2,635,250	2,515,000	120,250	
一般事業費	2,120,000	2,000,000	120,000	各支部総会、高崎高校交流事業、会報送料補助、HP運営費等
卒業記念費	200,000	200,000	0	記念品代(199名分)
表彰費	15,250	15,000	250	永年勤続者(1名)
会報費	300,000	300,000	0	印刷費
特定受取戻金	500,000	0	500,000	
特定受取戻金	500,000	0	500,000	将来の収入不足や支出増加に備える準備金
予備費	875,750	845,000	30,750	
予備費	875,750	845,000	30,750	
計	5,291,000	4,620,000	671,000	

米沢興譲館同

◎本部

会長	大友 恒則			
副会長	早川 正信	小林 擴二	中條 淳子	
監事	野口 義人	江部 寛	土田 一成	
常務理事	遠藤 岩根			
常任理事	小野 隆夫	平山孫兵衛	小嶋彌左衛門	
	渡辺 節子	佐野 隆一	鈴木 基	
	加藤 英樹	藤倉万里子	益子 光子	
	佐藤 詠一	安部 徳朗		

◇米沢支部

支部長	早川 正信		
	〒992-0054 山形県米沢市城西3-2-36		
	☎0238-22-6780		
副支部長	菅野 武巳		
監事	安達 治雄	安田 道隆	
幹事長	相田 修一		
事務局長	栗林 雄二		

◇東京支部

支部長	神野 民夫		
	〒187-0044 東京都小平市喜平町3-2-2-506		
	☎042-321-8047		
副支部長	吉田 仁志		
幹事長	宮坂 孝夫		

◇関西支部

支部長	吉田 真		
	〒606-8075 京都市左京区修学院坪江町2-5		
	☎075-721-1743		
副支部長	佐藤 吉憲		
監事	安達 治雄	安田 道隆	
幹事長	佐藤 和栄		

◇宮城支部

支部長	塚原 保夫		
	〒981-0052 宮城県仙台市青葉区中山5-7-33		
	☎022-278-3063		
副支部長	和田美知子	御供 政敏	森下 和夫
幹事	小林 令児	矢尾板範子	大武 清夫
	小関 隆久	高木 三男	猪俣 良市
	加藤 啓二	高橋 義彦	熊坂 仁
	山水 忍	鈴木 利実	
事務局長	安部 雅人		

◇山形支部

支部長	堤 孝雄		
	〒990-2094 山形県山形市末広町9-8		
	☎023-624-0466		
副支部長	後藤 寛		
幹事長	生亀 寿子		
幹事	高橋 宏一	横井 洋子	加藤 章
	浅間 幸助		
監事	岩沼 甫	大内 勇	

2度目のSSH指定

SSH推進委員会事務局長 熊坂 克

本年度、本校は文部科学省より平成28年度までの5年間、スーパーサイエンスハイスクール(以下、SSHと略す)の指定を受けた。国家的な事業であるSSH指定は、未来を担う科学技術系人材を育てることをねらいとし、理数系教育の充実をはかる取り組みである。

平成14年度(SSH事業開始初年度)、文部科学省は全国で26校をSSHとして3ヶ年の指定を行った。その中の一つであった本校は、学校設定教科「生涯科学」によるカリキュラム開発や高等教育機関等と連携した校外学習資源の有効活用法の開発、理工部の部活動支援、高大連携による教員の指導力向上、そして、全教科による「科学する心」育成の取り組み等を展開してきた。

前回の指定終了から今回の指定まで7年間の期間があったわけだが、その間もSSH継承事業として、学校設定教科「生涯科学」を理数科で実践し、全校生徒を対象として校外学習資源を活用した事業を継続するなど、「科学する心」をつないできた。また、平成19年3月には、山形大学工学部と高大融合協定を締結し、大学の講義を本校生が受講できる等の制度構築も進んできた。

そのような中、今回のSSH指定により、前回指定時の課題を踏まえながら、さらに発展させた取り組みを実施していく予定だ。

前回のSSH指定時の課題としてあげられた主なものは次の通りである。

(1) 地域や他校、とりわけ中学

校へのSSH事業の取り組みの発信が不十分であった。

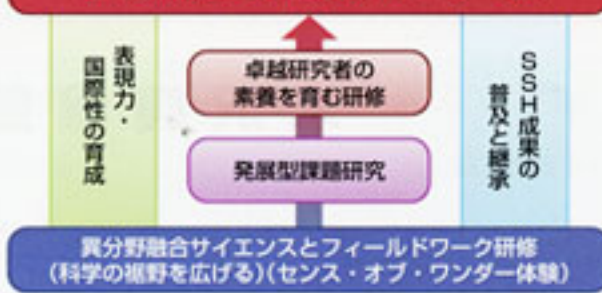
(2) 英語力の重要性や国際化を意識させるような事業が不十分であった。

これらを受けて、今年度より当面3年間を見据えた本校のSSH構想を右の概略図として表した。まず、1年生を主対象として学校設定教科・科目「異分野融合サイエンス」を展開する。これは、全教科が協働すること、様々な学問領域を融合させ、地域の科学関連企業やNPO法人などの各種団体、大学や

研究機関と連携を図りながら体系的な実験講座や演習、企業訪問研修等を行うものである。低学年の段階で様々な分野を「自然科学」の切り口で学ぶことにより、自然科学に対する興味・

関心が増大し、あわせて科学技術リテラシーの涵養を促す取り組みとなる。この事業を通じ、地域との連携を深め、前回のSSH指定時の課題(1)を克服していく。

日本の将来を担うサイエンスイノベーター育成



また、下表(平成23年度本校生を対象とした調査結果)に示したように、幼少期の科学実験教室への参加経験の有無が、高校段階での科・系選択(進路選択)に大きく関係してくることもわかった。したがって、あわせて、小中学生に向けた体験型の科学実験教室を実践することで、地域との連携とあわせて科学の裾野を広げる取り組みを進めていく。

さらに、これら低学年時の学びによって、科学の面白さや奥深さに気づき、そのような学問をさらに深く学んでいきたいと

小学生時代の科学実験教室への参加経験の有無と高校における科・系選択の関係 ※: $p < 0.05$ (χ^2 検定)

	参加あり	参加なし	参加%	有意差
普通科文系	16	123	11.5	*
普通科理系	21	102	17.1	
理数科	19	56	25.3	*
総計	56	281	16.6	

いう生徒に対しては、2年生以降から卓越研究者の素養を育む研修等に取り組んでいく。日本の将来を担うサイエンスイノベーター(卓越した研究者)になるためには、豊かな表現力や国際性が備わっている必要がある。国語科や英語科と協力しながら、海外研修等も見据えた事業も展開していく予定だ。これらによって前回SSH指定時の課題(2)も克服していきたい。